

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (幼) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP1141								
2. 授業担当教員	井戸川 敦											
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・他科目との関係												
7. 講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、保育者・指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。											
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現することの喜びを体験する。 2. 様々な作品に触れ、子どもたちの生き生きとした表現に共感できる感性を養う。 3. 子どもの発達段階における造形の特徴を理解し、場面に応じた援助の在り方について学ぶ。 4. 素材体験や題材研究を行い、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、保育者・指導者の立場から考察する。 											
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> i. 毎時の授業において制作する作品を提出課題とする。 ii. 制作・鑑賞に関わるレポートの作成と発表を行う。 iii. 最終的には、自己の振り返りとして授業で制作した作品をまとめて提出する。 以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。											
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 また授業の進行に伴い適宜資料を配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。 【教材】 制作道具・材料についてはオリエンテーション時や事前の授業で指示する。各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。											
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの表現に寄り添った造形活動の在り方について考える力がついたか。(学習目標 1・2) 2. 子どもの造形表現の特徴に関する基礎的な知識が身につけられたか。(学習目標 3・4) 3. 子どもの造形活動を支える上で不可欠な基礎的造形力、技能が身につけられたか。(学習目標 5) ○評定の方法 授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1. 授業への積極的参加</td> <td style="text-align: right;">総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み</td> <td style="text-align: right;">総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等)</td> <td style="text-align: right;">総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>4. 課題 (作品発表、レポート等)</td> <td style="text-align: right;">総合点の 20%</td> </tr> </table>				1. 授業への積極的参加	総合点の 20%	2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み	総合点の 30%	3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等)	総合点の 30%	4. 課題 (作品発表、レポート等)	総合点の 20%
1. 授業への積極的参加	総合点の 20%											
2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み	総合点の 30%											
3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等)	総合点の 30%											
4. 課題 (作品発表、レポート等)	総合点の 20%											
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> ①指導者の資格を得るという自覚を持ち、積極的に授業に参加すること。 ②実技を主とした授業展開のため欠席すると授業についてこれられない可能性があります。やむを得ない理由がない限り休まないこと。 ③使用する道具や自分の作品を大切にすること。 ④多くの体験を積み、広い視野を持つこと。 以上のことを意識し、自身のために有意義な時間にしてください。											
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等 (メールなどで事前にご連絡ください)											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容		学習課題									
第 1 回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 造形表現の構造・発想について (講義+演習)		事前学習	教科書を一通り確認しておく。 また、図画工作や美術の授業を振り返り、印象深かった出来事について考える。またそれを踏まえ、自身が保育者になった際、子どもたちが豊かに制作できる環境設定を考える。								
			事後学習	自身のこれまでの制作活動を振り返り、考えたこと感じたことをまとめる。								
第 2 回	◇ 表現の基礎 素材の特徴と組み合わせについて		事前学習	これまでの描画経験を振り返り、描画の基本について考える。基本的な道具の使用法を復習し、今後表現するための基盤とする。								
			事後学習	授業で学んだ内容を振り返り、各自で準備したモチーフを描いてみる。								
第 3 回	◇ モダンテクニックによる表現 I (デカルコマニー・糸引き絵・フロッターージュ)		事前学習	絵の具を用いた制作活動の経験を振り返り、印象深かった作品を書き出す。作品制作に向けて、自分らしい色彩や表現について考え、構想をまとめる。								
			事後学習	デカルコマニー・糸引き絵・フロッターージュによる制作活動を振り返り、同様の技法が用いられた美術作品について調べる。また上記の技法を使用し作品を制作する。								

第4回	◇ モダンテクニックによる表現 II (スパッタリング・ドリッピング・吹き絵)	事前学習	筆を用いない描画の経験を振り返り、印象深かった作品を書き出す。作品制作に向けて、モチーフや資料を収集する。
		事後学習	スパッタリング・ドリッピング・吹き絵による制作活動を振り返り、同様の技法が用いられた絵本作品について調べる。また上記の技法を使用し作品を制作する。
第5回	◇ モダンテクニックによる表現 III (スタンプング・クレヨンステンシル) (講義+演習)	事前学習	教科書 第3章④pp. 57-59を読む。 また、作品制作に向けて、身の回りにある自然物の有機的な形態に着目し、構想を練る。 またクレヨンを用いた制作活動の経験を振り返る。
		事後学習	スタンプング・クレヨンステンシルによる制作活動を振り返り、技法と表現の関係について考える。また上記の技法を使用し作品を制作する。
第6回	◇ モダンテクニックによる表現 IV (パチック・にじみぼかし・コラージュ)	事前学習	筆を用いない描画の特性について考える。作品制作に向けて、幻想的な表現による画面をイメージし、構想を練る。
		事後学習	パチック・にじみぼかし・コラージュによる制作活動を振り返り、子どもの造形活動における見立ての重要性について考えたこと、感じたことをまとめる。また上記の技法を使用し作品を制作する。
第7回	◇ ポップアップカードによる表現 I (窓のある絵、ポケットのある絵・折って開く絵)	事前学習	ポップアップカードについて調べ、作品の構想を練りながら、制作に使用できそうなイメージを収集する。
		事後学習	窓のある絵、ポケットのある絵・折って開く絵による制作活動を振り返り、同様の技法が用いられた絵本作品について調べる。また今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第8回	◇ ポップアップカードによる表現 II (パクパクカード・平行ボックスカード) (講義+演習)	事前学習	教科書 第6章①pp. 127-140を読む。 また、ポップアップカードについて調べ、作品の構想を練りながら、制作に使用できそうなイメージを収集する。また実際の現場での使用アイデアの構想を練る。
		事後学習	ポップアップカードについて復習する。様々なポップアップカードのアイデアを書き出し、出来上がりのイメージとともに記録する。また今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第9回	◇ 紙版画 紙を素材とした版画表現の研究	事前学習	画用紙と版画用インク（または絵の具）を使用し、紙版画を制作する際、どのような工夫ができるかを考えアイデアを書き出す。
		事後学習	紙版画の制作活動を振り返り、実際に制作する作品以外にどのようなテーマで制作できるかを考え、アイデアを書き留める。また紙版画の技法を使用し作品を制作する。
第10回	◇ 影絵 影絵を使用した授業内容の研究	事前学習	影絵を作るにあたって、その材料や参考作品、また授業での利用法について調べる。また実際に作るにあたっての安全面の考慮や制作方法についてまとめる。
		事後学習	子どものイメージを刺激する影絵の活用方法や意義について振り返りまとめる。また実際に影絵の技法を使用し作品を制作する。
第11回	◇ オンライン美術館 Google Arts & Culture を使用した鑑賞の授業内容の研究 (講義+演習)	事前学習	教科書 第6章②pp. 141-154を読む。 また、中学校・高等学校において使用していた美術の教科書を見返し、好きな作家・作品について調べる。その際に、作品を好きだと感じる理由についても考える。
		事後学習	Google Arts & Culture を使用し、興味のある作家の作品について考えたこと感じたことをまとめる。また、キャプションの書き方について調べる。
第12回	◇ 工作活動(立体) I 題材の設定、制作の準備・構想と制作	事前学習	任意の素材を使用した工作活動にどのようなものがあるか調べて、制作のイメージを広

			げる。
		事後学習	実際に制作する造形物についての制作方法やデザイン案をまとめる。また今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第13回	◇ 工作活動（立体）Ⅱ 素材についての研究 （講義＋演習）	事前学習	教科書 第6章③pp. 155-165を読む。 また、空き容器など、身近にある素材に目を向けて、造形材料の可能性について考える。 身近な材料を利用した作品制作に向けて、モチーフに関する資料を収集する。
		事後学習	廃材となる素材を利用した制作活動を振り返る。他の学生が利用していた素材にも着目し、内容をまとめる。また今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第14回	◇ 製本作業Ⅰ 制作のまとめ	事前学習	色々な製本の方法を調べる。また書籍の各部の名称についても調べ、まとめておく。
		事後学習	これまでの制作活動を振り返り冊子にまとめる。 また表紙の図案を考え制作する。
第15回	◇ 製本作業Ⅱ 制作のまとめと発表と講評	事前学習	作品発表に向けての準備をする。これまでの制作のポイントについてまとめて発表に備える。
		事後学習	図画工作Ⅰでの自身の制作活動を振り返りながら、自分の造形表現の個性について考える。冊子（自身の作品集）の提出に向けて、作品をまとめる。